

林業普及週間現地情報(12/20～12/24)

森林管理課

地域材の利活用に係る事業提案

12月24日(金)

令和3年12月24日、森林管理課、北部農林水産振興センター、沖縄北部森林組合と共同で、今帰仁村役場に対し地域材の利活用に関する事業提案を行った。

今帰仁村は村有林に胸高直径が60cmを超えるクスノキやセンダンの大径木が生育する優良な林分を有している。村としても林分の状況のある程度は把握しているものの、長年、地域材利用の実績がないため、在職する役場職員等に地域材を活用するノウハウが蓄積されていない。

一方で、村では令和3年9月より新庁舎建設工事が行われており、地域材を新庁舎内に使用し、地域住民に対しその利用について普及啓発するまたとないチャンスである。

今回、役場職員に対し立木の伐採から加工、製品作成までの地域材利活用の一連のノウハウの提供を主目的に村有林で事業を実施する提案を行った。

村役場担当からは「新庁舎の備品に地域材を利用したい」等の声が挙がり、事業実施について前向きに検討していくことが確認された。

また、森林資源研究センターから文献及び聞き取り調査等を元に、今帰仁村内の地域材利用の歴史について説明があり、先人たちが残した優良林分について認識を改めるよい機会にもなった。

今後は具体的な事業化に向けて関係機関で調整を進め、県内での地域材利用のモデルとなるよう取り組んでいきたい。



写真-1
村有林の大径木(クスノキ)



写真-2
村役場との事業提案に係る意見交換会

(報告者：北部農林水産振興センター 今田・玉城・森田)